
転車台の保存、移転、撤去について

2022年3月4日

1 現在地に「保存」する場合の残し方

- ・できるだけ町有地を活用
- ・駅舎近くで乗降、待合可能
- ・憩いの場 → 既存公園も活用
- ・今後、JR敷地について協議を進める必要がある

〔 JR敷地 〕

1 現在地に「保存」する場合の残し方

(1) 現在地に保存する場合

①保存した後の活用は？

- 転車台…現在地保存となれば、検討している西口駐車場はレイアウト変更が必要となる。→ 安全面から、転車台から自動車動線を離す必要
- ・観光的側面から、転車台周辺に、安全に人が集まれる空間・動線づくりが必要となる。
- ・教育的側面から、子どもたちが俱知安町の歴史(鉄道、農業、観光等々)を学ぶために利用するため、安全性の確保が求められる。
- ・公民館のSLや六郷鉄道記念公園の車両、風土館と連携した活用(一体化、現地へ誘導する仕組み・動線作り)

②修繕・保存費用は？

- ・各自治体にある施設の状況や内容で大きく異なる。移設する場合よりは安価であると思われるが、多額の費用が見込まれる。(参考:下表)
- ・移転後、毎年/数年ごとのメンテナンスが必要。(新駅に隣接し、多くの方が訪れるため「景観」「安全性」に最大限の対応が必要)

③保存方法は？

- ・転車台は野ざらし、SLが乗るのであれば風雨や冬季間の保管に耐えられる上屋等が必要となる。
- ・転車台やSLなどを動態保存が必要か → 体育館などの既存施設があるなかで、駅利用駐車場の確保が必須であり、敷地的にも動態保存は困難。静態保存が前提となる。

(2) 参考 ※ 概算であり、今後方向性に沿った精査が必要

作 業 内 容	概 算 見 積 額 (税 抜) ・ 備 考
転車台 移転 (土木工事込)	70,000,000円～
転車台 修繕	5,000,000円～ + α (保存方法で異なる)
転車台 解体	+0,000,000円～
SL 移転	10,000,000円～ (別に詳細な見積も依頼中)
SL 修繕	20,000,000円～
上屋 製作	10,000,000円～
調査(構造、強度など)	※保存方法についても調査が必要
石碑作成・展示スペース 等	外構工事や案内石碑の作成など
維持管理費	毎年/数年ごとのメンテナンスが必要 (例:塗装費2,000,000円/1回、年1回と仮定し、10年で20,000,000円)
公園用地・駐車場用地取得	減少する公園の考え方 必要な駐車場用地の取得が必要 (例:5,000㎡を50,000円/㎡で取得→250,000,000円)

2 現在地から「移転・移設」する場合の残し方

- ・できるだけ町有地を活用
- ・駅舎近くで乗降、待合可能
- ・憩いの場 → 既存公園も活用
- ・今後、JR敷地について協議を進める必要がある

[JR敷地]

2 現在地から「移転・移設」する場合の残し方

(1) 現在地から移転・移設する場合

①移転・移設場所は？

○転車台…倶知安機関区の歴史、新駅舎との連携を考慮すれば、大規模な移転は考えにくい。

JRの敷地に近いので線路近接工事になる可能性がある。また、将来的に車両を乗せるなどの可能性がある場合はJRの基準を満たした構造物にすることが求められる。

- ・六郷鉄道記念公園や文化福祉センター前（現SL保管地）→ 敷地の問題や、転車台と新幹線を連動した取組みに活用できない。
- ・くときさんパーク → 現在の場所から北側に移設（現JR敷地の活用も検討か）、新幹線と連動した取組みに活用できる。

②移転・移設費用は？

- ・各自治体にある施設の状況や内容で大きく異なるが、多額の費用が見込まれる。（参考：下表）
- ・移転後、毎年/数年ごとのメンテナンスが必要。（新駅に隣接し、多くの方が訪れるため「景観」「安全性」に最大限の対応が必要）

③移転・移設可能な施設なのか？

- ・撤去された機関庫と転車台を結ぶ旧線路上 → 鉄道が実際に走行していたため、地盤は安定しているのではないかと位置は限定される
- ・転車台そのものの強度など、詳細については調査が必要。

(2) 参考 ※ 概算であり、今後方向性に沿った精査が必要

作 業 内 容	概 算 見 積 額（税 抜） ・ 備 考
転車台 移転（土木工事込）	70,000,000円～
転車台 修繕	5,000,000円～ + α （保存方法で異なる）
転車台 解体	+0,000,000円～
SL 移転	10,000,000円～（別に詳細な見積も依頼中）
SL 修繕	20,000,000円～
上屋 製作	10,000,000円～
調査（構造、強度など）	※保存方法についても調査が必要
石碑作成・展示スペース 等	外構工事や案内石碑の作成など
維持管理費	毎年/数年ごとのメンテナンスが必要 （例：塗装費2,000,000円/1回、年1回と仮定し、10年で20,000,000円）
公園用地・駐車場用地取得	減少する公園の考え方 必要な駐車場用地の取得が必要 （例：1,500㎡を50,000円/㎡で取得→75,000,000円）

3 現在地から「撤去」する場合の残し方

- ・できるだけ町有地を活用
- ・駅舎近くで乗降、待合可能
- ・憩いの場 → 既存公園も活用
- ・今後、JR敷地について協議を進める必要がある

〔 JR敷地 〕

3 現在地から「撤去」する場合の残し方

(1) 現在地から撤去する場合

① 転車台の歴史の伝え方は？

- 転車台…町・機関区の歴史と併せ、駅都市施設などで展示し、風土館や文化福祉センター前へ誘導する賑わい作りができないか。
 - ・ 新幹線駅（都市施設）に町の歴史の一つとしてスペースを設ける（町の農業～鉄道（蒸気機関車→新幹線）の歴史）
 - ・ 第2回インバウンド観光勉強会の場において、「町の歴史を示す展示がほしい」との意見もあり。俱知安駅で降りた方に最初に歴史に触れていただき、駅前やまちなかでの賑わい作りと、その後の滞在に繋げる。
 - ・ 風土館を活用した展示も考えられるが、町を訪れた方が最初に歴史に触れるためには駅舎・都市施設が望ましい。

② 撤去費用は？

- ・ 施設の状況や内容で大きく異なるが、現物保存と比較して費用が押さえられる。（参考：下表）
- ・ （参考値）鉄骨鉄筋コンクリート住宅の解体費が約8万円/坪、転車台幅を約20mとすれば約800万円。実際は家屋ではなく、構造も特殊なことから、より多額の費用が必要になると思われる。

③ 撤去方法は？

- ・ 西口駅前整備に併せて撤去するだけでなく、転車台の現物保存を希望する団体等への売却、譲渡などは可能か検討が必要。

(2) 参考 ※ 概算であり、今後方向性に沿った精査が必要

作業内容	概算見積額（税抜） ・ 備考
転車台 移転（土木工事込）	70,000,000円～
転車台 修繕	5,000,000円～＋α（保存方法で異なる）
転車台 解体	10,000,000円～
SL 移転	10,000,000円～（別に詳細な見積も依頼中）
SL 修繕	20,000,000円～
土屋製作	10,000,000円～
調査（構造、強度など）	※撤去方法についても調査が必要
石碑作成・展示スペース 等	展示スペースの設置など
維持管理費	毎年/数年ごとのメンテナンスが必要 （例：塗装費2,000,000円/1回、年1回と仮定し、10年で20,000,000円）
公園用地・駐車場用地取得	減少する公園の考え方 必要な駐車場用地の取得が必要

4 転車台のあり方検討

(1) 前回までの意見を踏まえた転車台のあり方について

転車台は、駅西口駅前広場整備予定エリアに設置されている。

駅西口駅前広場は、並行在来線の存廃に係る方向性が定まらなないと検討を深めることができなかったが、北海道新幹線並行在来線対策協議会後志ブロック会議の場で長万部～余市間については「並行在来線の廃止」と「バス転換」の方針が定まったことから、令和4年度より、北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会において本格的な検討に入っていく。

現在の駅西口駅前広場の整備予定エリアは、公園用地とJR鉄道用地にまたがっており、今後JRとの用地協議を進める必要があるが、

- ・できるだけ町有地を活用
- ・駅舎近くで乗降、待合が可能
- ・憩いの場づくりとして、既存公園も活用

できることを軸に設定されている。

倶知安町は1年を通して様々なアクティビティが楽しめるが、多くの来訪者はパウダースノーを求めて冬季のニセコエリアを訪れている。こうした来訪者に向けて、天候に左右されない駅都市施設内や風土館などで旧国鉄時代の歴史を展示・周知することで、羊蹄山に抱かれた農業・鉄道、観光と歩んできた「倶知安町」を意識づけ、町内施設への誘導、賑わいづくりを進め、町を楽しんでもらう取組みを推進していきたい。

(2) 第4回部会に向けて

